

第23回 苫小牧市公共交通協議会【要旨】

日 時 : 令和3年2月10日(水) 14時30分～

場 所 : 苫小牧市役所 職員会館 304号室

出席者 : 下夕村委員(会長)、木村委員(副会長)、高本委員(道南バス:柴田委員代理)、井川委員(北海道中央バス:五十嵐委員代理)、吉田委員(あつまバス)、金山委員(JR北海道)、佐伯委員(室蘭運輸支局)、鳥本委員(苫小牧道路事務所:阿部委員代理)、福田委員(胆振総合振興局:水井委員代理)、足立委員(室蘭建設管理部)、清野委員(苫小牧市)、堺委員(苫小牧警察署)、重本委員(老人クラブ連合会)、山端委員(町内会連合会)、澤田委員(社会福祉協議会)、遠藤委員(商工会議所)、工藤委員(室蘭地区交運労協)、森委員(公募)橋根委員(公募)

【委員任期満了に伴う改選について】

- ・ 本協議会の委員については令和2年12月19日付、公募委員については令和3年1月26日付で新しい委員に改選されており、委員全員が再任となり変更はなし。
- ・ 委員改選にあたり、会長及び副会長の選任を行った。

《協議事項》 苫小牧市地域公共交通計画(素案)について

議案第1号: 苫小牧市地域公共交通計画(素案)について

- ・ バス路線の将来の在り方を検討するためにバス路線の再編シミュレーションを行い、結果分析、分科会での協議を経て、本計画素案、施策の検討を進めてきた。
- ・ 計画の期間は、令和3～7年度までの5年間。
- ・ 公共交通の現況として、バスの乗降データの分析内容とその結果、また、交通ニーズの把握調査として、市民アンケートの内容について記載。
- ・ 調査結果からの現状とそこから読み取れる公共交通の課題を把握し、施策の方向性をどのように持っていくかを整理し、施策の取組などに反映させている。
- ・ 計画の基本的な方針として、本計画の基本理念を「将来にわたり持続可能な公共交通ネットワークの形成」とする。
- ・ 5年後を見据えた目指すべき将来像を、公共交通機関ごとに示している。
- ・ 路線バスの将来像として、おおむね10年以上先の将来を見据え、苫小牧駅を起点とした東西基幹軸、郊外の団地などから東西基幹軸をつなぐ支線の2つに分けるシミュレーションを行った。

- ・ 目標と評価指標を設定し、目標実現に向けた取組を具体的に記載。PDCAサイクルで計画を推進する。
- 施策の方向性として、ニーズに合わせた路線見直しをするというような見え方がしてしまうため、利便性と効率性のバランスが取れた施策としていく内容に文言は訂正、修正する。
- バスロケーションシステム導入の進捗について質問があり、今年度中に各バス車両への機材の設置、システムの設置を進めており、テストなどを踏まえ、運用開始の際は広く市民周知を図る旨を説明。
- 乗客の乗り降りがスムーズにいくような形での路線バスの運行、お盆など特別ダイヤ運行に係る周知、バスロケーションシステムに係るスマートフォン操作に関し、高齢者への使い方勉強会の開催について等意見あり。
- 目標値の設定について、利用者満足度の指標について再検討の余地がある旨意見あり。
- ・ 今後、「市民からの意見の募集（パブリックコメント）」を経て、計画策定に向け協議、検討していく。

⇒ 協議事項について、すべて原案どおり承認

以上